

第14回

包装材料セミナー

—包装業界での環境への対応と期待される今後の取り組み—

日時：平成31年1月25日(金)
 会場：富士ソフト アキバプラザ セミナールーム1
 主催：公益社団法人日本包装技術協会

ご参加のお勧め

近年包装材料には、多様化する消費者ニーズから、高機能化・高付加価値化・コスト競争力が求められ、単に内容物の保護だけでなく、加工性から使い勝手、廃棄性等総合的な性能が必要とされています。こうした状況に対応すべく、当会では、日々進化する包装材料の最新動向と今後の展開、業界情報等をご紹介します「包装材料セミナー」を開催しております。
 第14回目の今回は、包装の環境対応について、環境対応における海外事情やマイクロプラスチック削減に繋がる技術から、リサイクルの取り組みとリサイクルシステムについての説明等の内容でプログラムを編成しております。
 どうぞこの機会に関係各位奮ってご参加下さいませようご案内申し上げます。

プログラム

時間	講演内容	講師
9:50 ▼ 10:50	<p>◆『海外のパッケージの環境対策事情』</p> <p>「地球温暖化に加え、廃プラスチックが生態系に及ぼす影響への危機感が世界的に高まっている。2017年1月の世界経済フォーラムの年次総会(ダボス会議)で、英国のエレンマッカーサー財団が循環型経済への移行を提言、以降この運動はパッケージ製品のリデザイン、リサイクルに向けて拡がりを見せている。この流れを受け、欧州委員会は2018年5月にプラスチック製品の流通総量を規制し、海洋プラスチックごみの拡散を食い止める法案を提出、10月に欧州議会で可決された。2021年にはEU加盟各国で施行される見通し。EUは人口5億のEU域内の規制により、プラスチックごみ問題で世界をリードする考えた。民間企業の動きも活発だ。世界の主要消費財メーカーと流通企業400社が加入するConsumer Goods Forumでは、一社では対応不可能な非競争分野の共通課題、特にサステナビリティ分野で温暖化ガス排出削減、水資源の確保、食品ロス・廃プラスチックの削減や森林保護などのテーマに連携して取組んでいる。このようにプラスチックパッケージを規制する国際ルールが形成されつつあり、このままでは日本も欧州が中心となって策定したルールに合わせて環境対策を講じる必要に迫られる。海外パッケージの環境対策事情をレビューし、日本が採るべき道を考える。</p>	<p>株式会社パッケージング・ストラテジー・ジャパン 取締役社長 森 泰正 氏</p> <p>コーディネーター 凸版印刷株式会社 生活・産業事業本部 BIC開発本部 開発1部2T 課長 香川 幸子 氏</p> <p>アサヒ飲料(株) 研究開発本部 技術研究所 容器包装グループ グループリーダー 張 義宏 氏</p>
11:00 ▼ 12:00	<p>◆『環境中での有機リサイクルを実現する時限生分解性プラスチックの提案』</p> <p>生分解性プラスチックは、プラスチックの環境拡散問題の解決策の一つとして注目を集めています。一方で、生分解性プラスチックを汎用プラスチックの代替とするには、いくつかのプレイクスルーが必要です。本講演では、生分解性プラスチックの成立要件と問題点を挙げながら、問題点を克服するためのプラスチックの「時限」生分解性について解説し、現在当研究グループで取り組んでいる研究事例を紹介いたします。</p>	<p>群馬大学 学術研究院・教授 学長特別補佐 食健康学教育研究センター・センター長 粕谷 健一 氏</p> <p>コーディネーター ユニチカ(株) 包装フィルム営業部 市場開発グループ グループ長 桑田 秀樹 氏 雪印メグミルク(株) ミルクサイエンス研究所 グループリーダー 技術開発研究室 永平 電博 氏</p>
12:00▶12:50	◆昼食休憩・講師への質問用紙回収	
12:50▶13:20	◆講師への質問会	講師+コーディネーター
13:30 ▼ 14:30	<p>◆『トッパンの環境対応型パッケージの取組み』</p> <p>包装容器は多様な機能を有する一方で、内容物が使用・消費された後には不要なものとなりゴミとして廃棄されることから、流通容器としての役割を果たしながらも、地球環境への負担を極力減らした包装容器の開発が求められてきています。暮らしに欠かすことのできない包装容器を持続可能なものにするための弊社の取り組みについてご紹介いたします。</p>	<p>凸版印刷株式会社 生活・産業事業本部 BIC開発本部 開発1部2T 課長 香川 幸子 氏</p> <p>コーディネーター (株)ロッテ ロッテノベーション本部 パッケージ企画課 小垣 美津子 氏 マースジャパンリミテッド アジア太平洋地域研究開発部 パッケージマネージャー 大橋 敬史 氏</p>
14:40 ▼ 15:40	<p>◆『容器包装プラスチックのリサイクルシステムの概略と容器包装に望むこと』</p> <p>容器包装プラスチックには、PE、PP、PS、PET、PA、PVC等多くの樹脂が使われていますが、容器包装本来の役割を果たすため、単一樹脂で使われることは少なく、ラミネート加工されている物が多いです。また、添加剤、顔料、接着剤等も使用されています。そして、流通、小売、消費、分別、収集と多くのプロセスを経たのちにリサイクルプラントに搬入されます。リサイクラーは、このように多種多様で多くのプロセスを経た容器包装プラスチックをリサイクルするために様々な設備を使用していますので、現在のリサイクラーの一般的なフローを説明させていただき、設備によって対応できる事、対応できない課題について整理したいと思います。</p>	<p>ヴェオリア・ジェネッツ株式会社 プラスチックリサイクル本部 副本部長 喜田 知克 氏</p> <p>コーディネーター 東洋製罐(株) テクニカルセンター 基盤技術開発部 プラスチック素材開発グループ グループリーダー 宇田 大輔 氏 (株)クラレ エバル事業部 品質・技術統括部長 田井 伸二 氏</p>
15:40▶16:00	◆休憩・講師への質問用紙回収	
16:00▶16:30	◆講師への質問会	講師+コーディネーター

講師のご紹介

森 泰正(モリ ヤスマサ)氏
株式会社パッケージング・ストラテジー・ジャパン
取締役社長

【ご略歴】
1972年～2009年
三井・デュボン ポリケミカル(株)勤務
1988年～1990年
米国デュボン社 パッケージ事業部門に出向
2009年～2017年
三井物産(株) パッケージング・シニアアドバイザー
2015年1月
㈱パッケージング・ストラテジー・ジャパンを有田氏
(現有三井物産株式会社)より承継、現在に至る。
海外と日本の最新パッケージング技術の融合を目指す
活動を行っている。

粕谷 健一(カサヤ ケンイチ)氏
群馬大学 学術研究院・教授 学長特別補佐
食健康学教育研究センター・センター長

【ご略歴】
1997年 東京工業大学大学院生命理工学研究科博士課程修了
1997年 理化学研究所基礎科学特別研究員
1999年 群馬大学工学部生物化学工学科 助手
2005年 群馬大学工学部生物化学工学科 助教授
2010年 群馬大学大学院理工学府分子科学部門 教授
2017年 群馬大学食健康科学教育研究センター
センター長(兼任)
*有資格・著書
博士(工学)
微生物パワーでプラスチックが消える 生活と環境
(2016.7)等

香川 幸子(カガワ サチコ)氏
凸版印刷株式会社 生活・産業事業本部
BIC開発本部 開発1部2T 課長

【ご略歴】
1998年 凸版印刷株式会社 入社
GLフィルム開発を経て、現在、機能性パッケージ開発
に従事

喜田 知克(キダ トシカツ)氏
ヴェオリア・ジェネッツ株式会社
プラスチックリサイクル本部 副本部長

【ご略歴】
2004年
東北大学大学院農学研究科修了
2004年～2006年
共和化工株式会社
2006年～2016年
株式会社リサイクルワン(現株式会社レノバ)に入社
し、容器包装プラスチックリサイクル事業の立ち上
げ、オペレーションに携わる。
2016年～
ヴェオリア・ジェネッツ株式会社

開催要領

日時:平成31年1月25日(金)
会場:富士ソフト アキバプラザ セミナールーム1
東京都千代田区神田練堀町3 富士ソフト秋葉原ビル6F
参加費:会員20,520円(消費税8%、テキスト代含む)
*同時に3名以上でお申込みの場合には
割引価格として1名16,740円
一般28,080円(消費税8%、テキスト代含む)
定員:100名

お申し込み方法

- 本紙申込書に必要事項を全てご記入の上、FAXにてお申込み下さい。
協会HPからのお申し込みも出来ます。
協会HP:<http://www.jpi.or.jp>
- 申込みされた方には、後日参加証と請求書をお送りします。
- 開催1週間前からの参加費の払い戻しは致しません。申込みされた方が
ご都合の悪い場合、代理の方の出席は差し支えありません。
(当日、名刺をご提出いただきます。)

お問い合わせ並びにお申し込み先

公益社団法人日本包装技術協会 包装材料セミナー係
担当:竹内
〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10F
TEL.03(3543)1189 FAX.03(3543)8970
e-mail:takeuchi@jpi.or.jp

【個人情報の取り扱いについて】

1. 個人情報は「第14回包装材料セミナー」の事業実施に関する資料等の作成、並びに当会が主催・実施する各事業におけるサービスの提供や事業のご
案内のために利用させていただきます。なお、作成資料は開催当日、関係者に限り配布する場合があります。
2. 参加申込みによりご提供いただいた個人情報は、法令に基づく場合などを除き、個人情報を第三者に開示・提供することはありません。

会場 案内図

富士ソフト アキバプラザ セミナールーム1
東京都千代田区神田練堀町3 富士ソフト秋葉原ビル6F

交通アクセス

- JR線秋葉原駅 中央改札口より徒歩2分
- つくばエクスプレス線 秋葉原駅 A3改札口より徒歩1分
- 東京メトロ日比谷線 秋葉原駅 2番出口より徒歩4分



第14回包装材料セミナー(1月25日開催)参加申込書

公益社団法人日本包装技術協会 竹内 行 FAX.03(3543)8970 No.

会社名					
所在地	(〒)				
電話			FAX		
参加者名	氏名	所属役職		e-mail	
	氏名	所属役職		e-mail	
	氏名	所属役職		e-mail	